

## プログラミング言語の基礎概念

導出システム ... プログラミング言語の意味論や型システムを  
derivation system

semantics

記述するための枠組み

自然演繹 (数理論理学で形式的証明を記述するための) や  
シーケント計算といった体系を一般化した汎用的な枠組み

議論の対象 (論理式、プログラム、型など) に対する  
様々な判断を推論規則に従って導くための記述体系

判断の形式とそれに対する推論規則群を  
与えることによって定められる

例) 自然数の大小比較を対象とした導出システム

判断の例: 3 は 5 より小さい

推論規則の例: 任意の自然数  $n_1, n_2, n_3$  について,  
 $n_1$  が  $n_2$  より小さく、かつ  $n_2$  が  $n_3$  より小さいならば、  
 $n_1$  は  $n_3$  より小さい

### 1.1 自然数の加算・乗算: 導出システム Nat

定義 1.1 導出システム Nat で我々が扱う判断の一般的な形式は  
 $n_1, n_2, n_3$  をペア/自然数

- $n_1$  plus  $n_2$  is  $n_3$
- $n_1$  times  $n_2$  is  $n_3$

のいずれかとする。

※ 形式上は正しいが内容的には正しくない判断も考えてよい

例)  $S(S(z))$  plus  $S(S(S(z)))$  is  $S(z)$

今後、単に「判断」といったら、形式的に正しい判断を指す

定義 1.2 判断 " $n_1$  plus  $n_2$  is  $n_3$ " のための推論規則は  
次のふたつである

規則 P-ZERO: 任意のペア/自然数  $n$  に対して、  
 $n$  plus  $n_2$  is  $n_3$  を導いてよい。

規則 P-SUCC: 任意のペア/自然数  $n_1, n_2, n_3$  に対して、  
 $n_1$  plus  $n_2$  is  $n_3$  ならば  
 $S(n_1)$  plus  $n_2$  is  $S(n_3)$  を導いてよい。

規則 P-SUCC のような、「 $J_1$  ならば  $J_2$ 」という形の、<sup>premise</sup> 前提のある推論規則は、前提となる判断  $J_1$  が既に得られている場合に限り  $J_2$  の判断を導いてよい

定義 1.3 判断 " $n_1$  times  $n_2$  is  $n_3$ " のための推論規則は以下のふたつ

規則 T-ZERO:  $z$  times  $n$  is  $z$  <sup>任意のペア/自然数</sup>  
 規則 T-SUCC:  $n_1$  times  $n_2$  is  $n_3$  かつ  $n_2$  plus  $n_3$  is  $n_4$  ならば、 $S(n_1)$  times  $n_2$  is  $n_4$

$$\bullet n_1 \times n_2 = n_3$$

$$\bullet n_2 + n_3 = n_4$$

$$\boxed{S(n_1) \times n_2 = n_4}$$

$$n_2 + (n_1 \times n_2) = n_4$$

$$n_2 \frac{(n_1 + 1)}{S(n_1)} = n_4$$

$$S(S(z)) \text{ times } S(S(z)) \text{ is } S(S(S(S(z))))$$

規則 T-ZERO より  $z$  times  $S(S(z))$  is  $z \dots ①$

"

$$z \text{ plus } z \text{ is } z$$

$$\text{P-SUCC} \rightarrow S(z) \text{ plus } z \text{ is } S(z)$$

$$\text{P-SUCC} \rightarrow S(S(z)) \text{ plus } z \text{ is } S(S(z)) \dots ②$$

規則 T-SUCC、①、② より  $S(z)$  times  $S(S(z))$  is  $S(S(z))$

規則 P-ZERO より  $z$  plus  $S(S(z))$  is  $S(S(z)) \dots ③$

$$\text{P-SUCC} \rightarrow S(z) \text{ plus } S(S(z)) \text{ is } S(S(S(z)))$$

$$\text{P-SUCC} \rightarrow S(S(z)) \text{ plus } S(S(z)) \text{ is } S(S(S(S(z)))) \dots ④$$

規則 T-SUCC、③、④ より  $S(S(z))$  times  $S(S(z))$  is

$$S(S(S(S(z)))) \text{ 終}$$

規則の適用によって判断を導く過程を <sup>derivation</sup> 導出と呼ぶ。

練習 1.2 (1)  $S(S(S(z)))$  plus  $S(z)$  is  $S(S(S(S(z))))$

$n = S(z)$  とすると P-ZERO より  $z$  plus  $S(z)$  is  $S(z)$

P-SUCC より  $S(z)$  plus  $S(z)$  is  $S(S(z))$

P-SUCC より  $S(S(z))$  plus  $S(z)$  is  $S(S(S(z)))$

P-SUCC より  $S(S(S(z)))$  plus  $S(z)$  is  $S(S(S(S(z))))$



## プログラミング言語の基礎概念

(2)  $S(z)$  plus  $S(S(S(z)))$  is  $S(S(S(S(z))))$  $n = S(S(S(z)))$  と P-ZERO より  $z$  plus  $S(S(S(z)))$  is  $S(S(S(z)))$ P-SUCC より  $S(z)$  plus  $S(S(S(z)))$  is  $S(S(S(S(z))))$ 

$$(3) \left( \begin{array}{l} \frac{S(S(S(z)))}{n_1} \text{ times } \frac{z}{n_2} \text{ is } \frac{z}{n_4} \\ \frac{S(S(z))}{n_1} \text{ times } \frac{z}{n_2} \text{ is } \frac{z}{n_3} \\ \frac{z}{n_2} \text{ plus } \frac{z}{n_3} \text{ is } \frac{z}{n_4} \end{array} \right)$$

 $n = z$  とすると P-ZERO より  $z$  plus  $z$  is  $z \dots ①$ 

$$\left( \begin{array}{l} S(z) \text{ times } z \text{ is } z \\ z \text{ times } z \text{ is } z \quad (n = z) \end{array} \right)$$

 $n = z$  とすると T-ZERO より  $z$  times  $z$  is  $z \dots ②$ 規則 T-SUCC, ①, ② より  $S(z)$  times  $z$  is  $z \dots ③$ 規則 T-SUCC, ①, ③ より  $S(S(z))$  times  $z$  is  $z \dots ④$ 規則 T-SUCC, ①, ④ より  $S(S(S(z)))$  times  $z$  is  $z$  終

練習 1.3 判断“ $n_1$  plus  $n_2$  is  $n_3$ ”が導出できる時、  
その導出には何回の規則の適用が必要か？

$$P\text{-ZERO} \quad \overset{\text{1回目の適用}}{z} \text{ plus } \overset{n_2}{\underbrace{(n)}} \text{ is } \overset{n_2}{\underbrace{(n)}} \quad \underline{(n_1 + 1) \text{ 回}} //$$

“ $n_1$  times  $n_2$  is  $n_3$ ”についてはどうか。

$(n_1 + 1)$  回、T-SUCC (最後の1回だけはT-ZERO)を適用する  
T-SUCCを適用することにより、 $(n_2 + 1)$  回の適用が必要になる

T-SUCC &amp; T-ZERO

$$(n_1 + 1) + (n_2 + 1) \times (n_1 + 1)$$

## 1.2 推論規則と導出の記法

規則 X:  $J_1$  かつ  $\dots$  かつ  $J_n$  ならば  $J_0$   $\frac{J_1 \dots J_n}{J_0}$